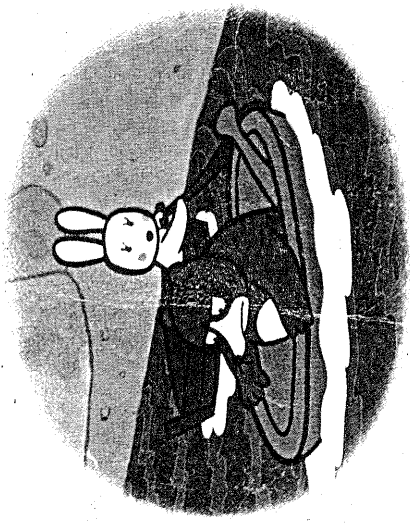
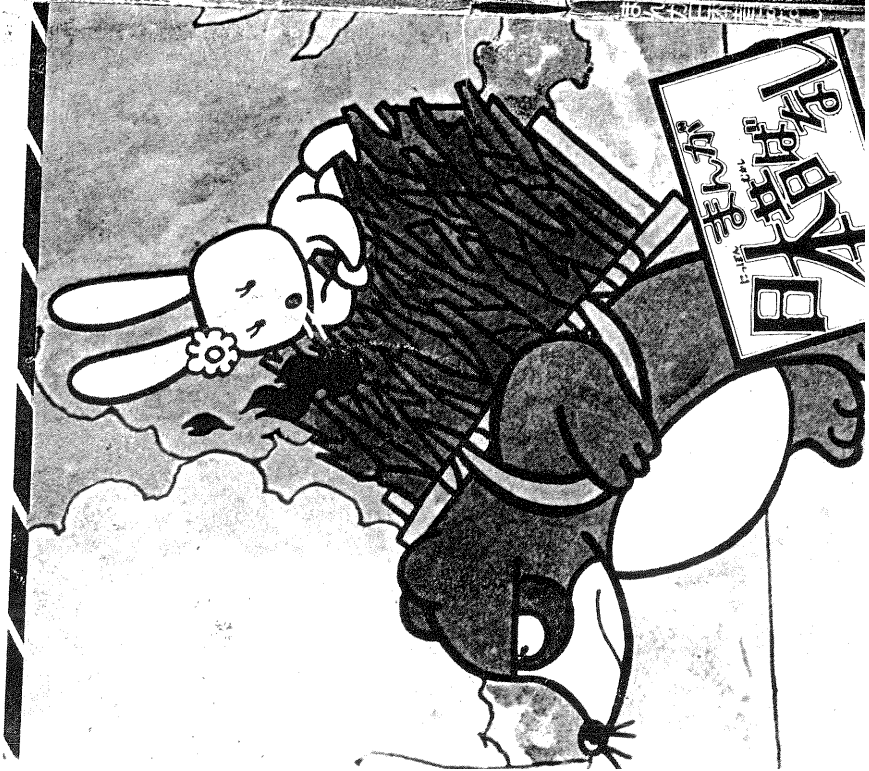


厚生省児童福祉文化賞受賞
（絵巻部門）

まんが日本昔ばなし 第五十六話

サラ文庫

かちかち山 やま



サラ文庫

0171-771202-7339(0)

まんが
日本昔ばなし

かちかち山 やま

● まんがが日本昔ばなし全集

- 【第一巻】 ①瓶太郎 ②電の淵 ③たにし長者 ④ちよふく山の山姥 ⑤鶴の恩がえし
- 【第二巻】 ⑥一休さん ⑦貧乏神と福の神 ⑧七夕さま ⑨大工と鬼六 ⑩風の神と子ども
- 【第三巻】 ⑪浦島太郎 ⑫髪長姫 ⑬ねずみのすもう ⑭天福地福 ⑮かもとり権兵衛
- 【第四巻】 ⑯かぐや姫 ⑰三枚のお札 ⑱吉屋のもり ⑲たのきゅうう ⑳夢を買う
- 【第五巻】 ㉑金太郎 ㉒鉢かつぎ姫 ㉓天狗の羽うち ㉔定六とシロ ㉕きき耳ききん

- 【第六巻】 ㉖証城寺の狸ばやし ㉗耳な坊一 ㉘おいてけ堀 ㉙初雲長者 ㉚食のくれた手拭
- 【第七巻】 ㉛花咲かじいさん ㉜水太郎と母竜 ㉝窪地蔵 ㉞方太郎 ㉟鎌きま桑の木
- 【第八巻】 ㊱おんぶく茶釜 ㊲薺老の滝 ㊳塩とぎうす ㊴しっぽの釣り ㊵豆つぶころころ
- 【第九巻】 ㊶一寸法師 ㊷八つ化けずきん ㊸ギジも鳴かずば ㊹かしき長者 ㊺空地蔵
- 【第十巻】 ㊻若丸 ㊼熊ときつね ㊽きつきと雀 ㊾湖の怪魚 ㊿たぬきと彦市

- 【第十一巻】 ①ぶとり爺さん ②赤ん坊になったお婆さん ③雪女 ④牛方と山んば ⑤牛のくればれもの
- 【第十二巻】 ⑥かち山 ⑦イワナの怪 ⑧大沼地の黒竜 ⑨天狗のかくれみの
- 【第十三巻】 ⑩舌切り雀 ⑪猫檀家 ⑫みそ買い桶 ⑬糶生門の鬼 ⑭はなれ小僧さま
- 【第十四巻】 ⑮さるかに合戦 ⑯大歳の火 ⑰十二支の八郎 ⑱十二支のはじまり
- 【第十五巻】 ⑲オオカミと娘 ⑳かっぱの雨ごい ㉑旅人馬 ㉒下駄 ㉓室の下駄

- 【第十六巻】 ㉔あとかくしの雪 ㉕おねずみ経 ㉖山伏石 ㉗木仏長石 ㉘相兵衛
- 【第十七巻】 ㉙船ゆうれい ㉚あずきとぎ ㉛子育てゆうれい ㉜ゆうれいの酒もり
- 【第十八巻】 ㉝おらしへ長者 ㉞猿神たいじ ㉟人參ごぼろと大根
- 【第十九巻】 ㊱田植之地蔵 ㊲うぐいす長者 ㊳あみそり狐 ㊴赤神と黒神
- 【第二十巻】 ㊵かっぱのくれた妙薬 ㊶馬方したぬき ㊷百合若大臣 ㊸座敷わらし ㊹仁王とどっこい

(予定)

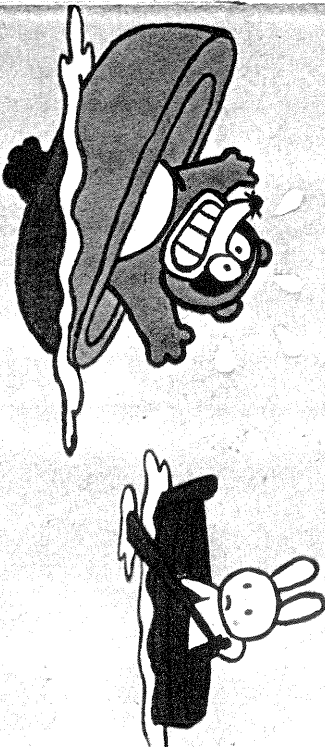
【伏魔殿】

かちかち山 (第五十六話) サラケ蔵

昭和57年2月15日 刊行
昭和57年6月30日 15刷発行
発行 二見書房
印刷/大日本印刷株式会社

◎愛プロ/グループ・タック

東京都千代田区三輪町2-18-2 電話 東京03(283)0034
東京都千代田区三輪町2-18-2 電話 東京03(283)0034
東京都千代田区三輪町2-18-2 電話 東京03(283)0034

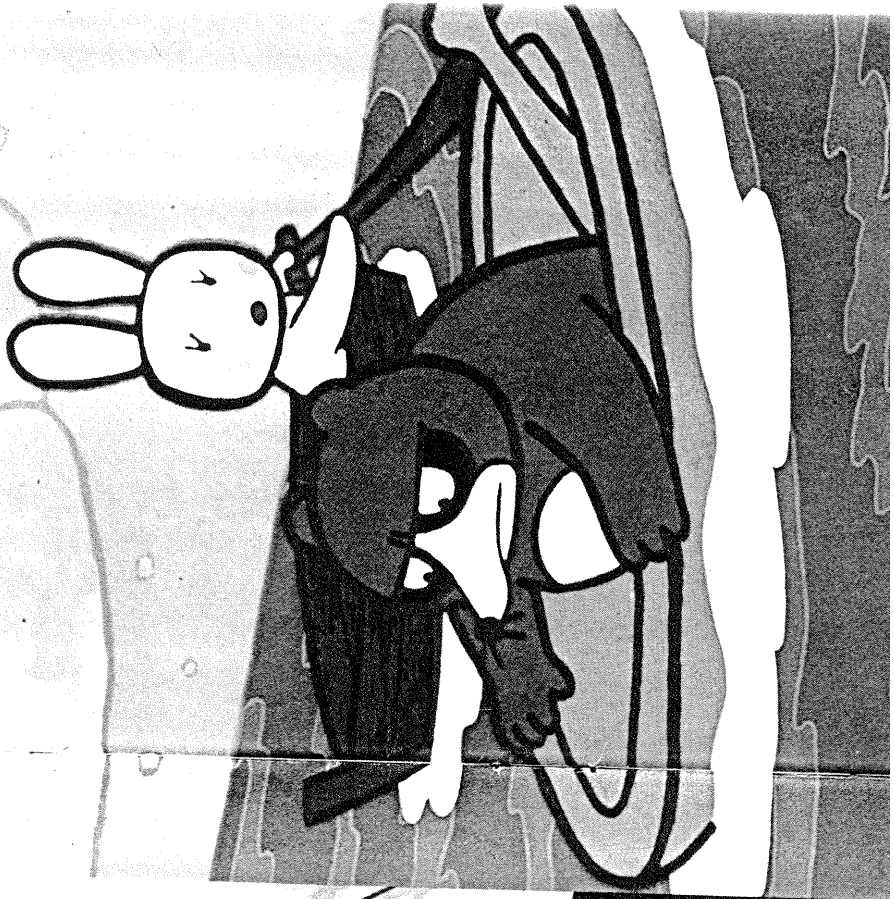


そこでウサギは、大きな声で
さげびました。

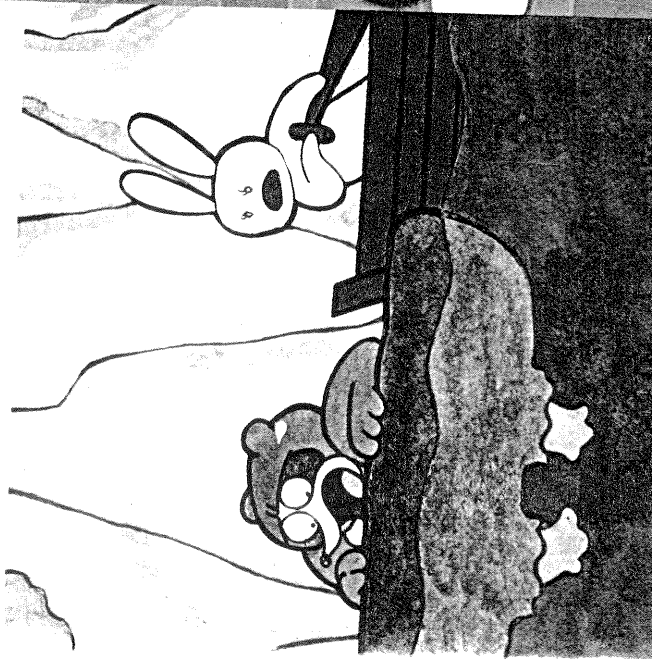
「だが、たすけてやるものか。
わかるいタヌキめ、ばあさまの
かたきだ、おもいしれえ!!」

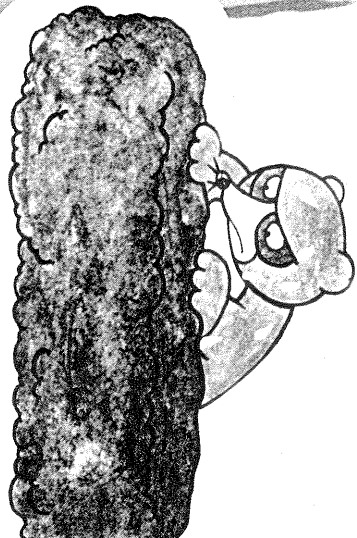
ウサギは、ばあさまをころし
たに、いタヌキを、ゆるすこと
がでなかつたのです。

こうして、おるダヌキは、泥
の船といっしよに、川の底へ、
しずんでしまいましたとさ。

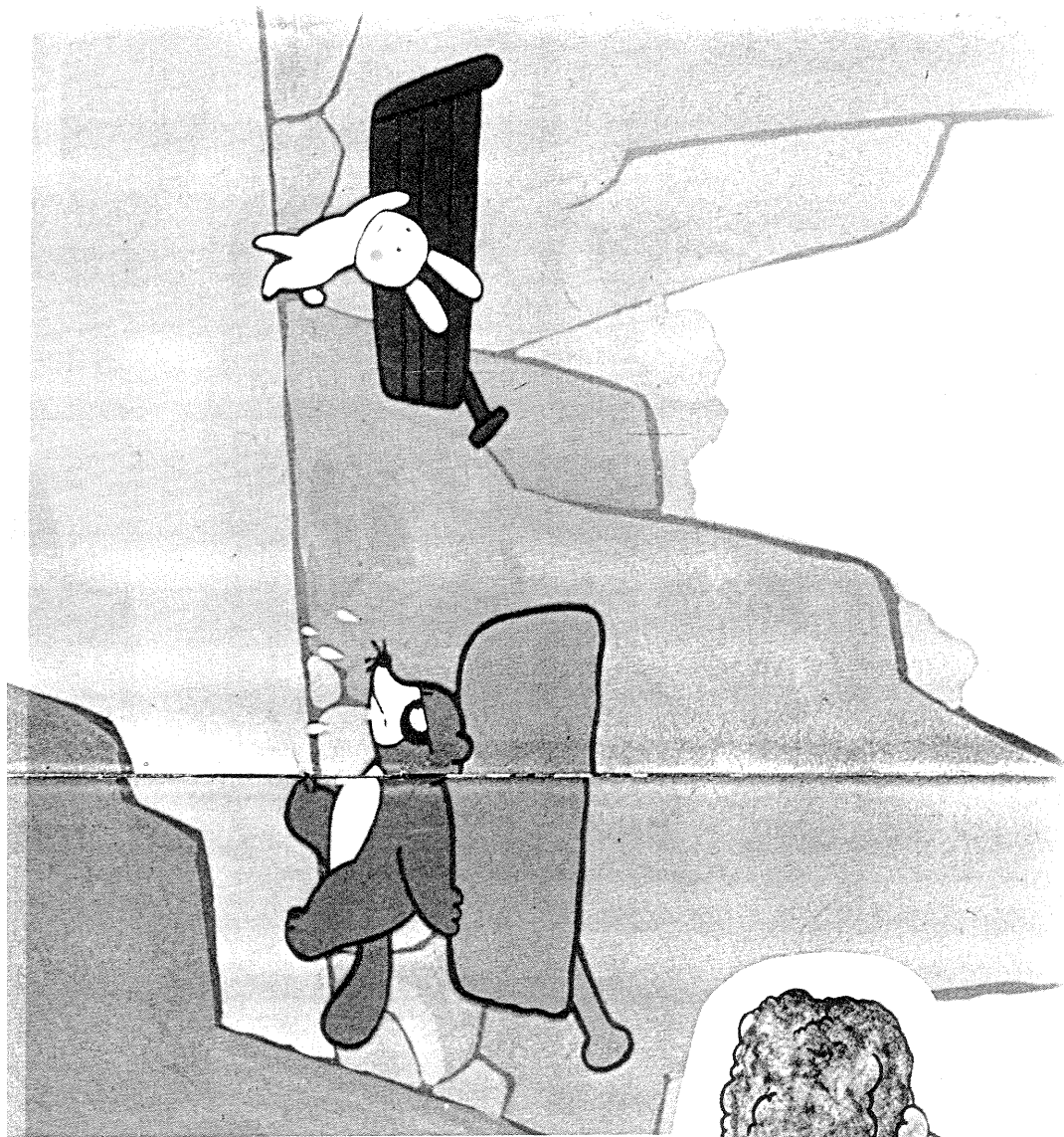


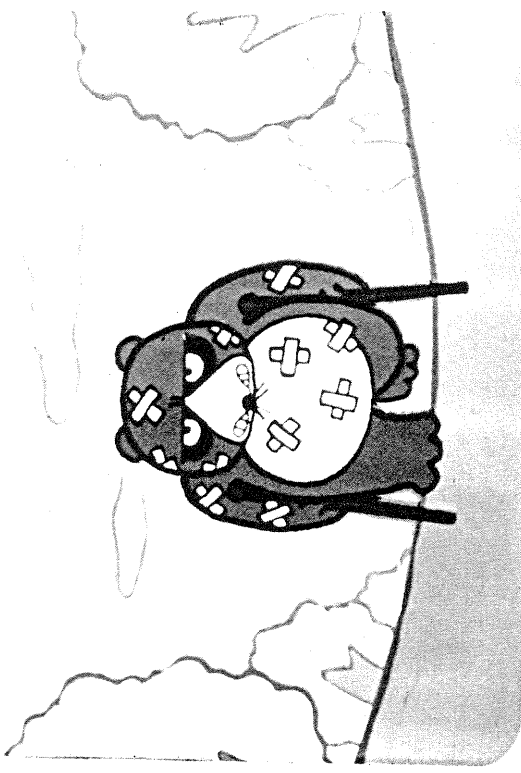
さて、川^がについたウ
サギとタヌキは、それ
ぞれ船^ねを、こぎだしま
したが……。
タヌキの泥^{どろ}の船^ねは、
水^{みづ}にとけて、まもなく
ズブズブと、しずみは
じめました。
「うわーっ、た、た
すけてくれー!!」





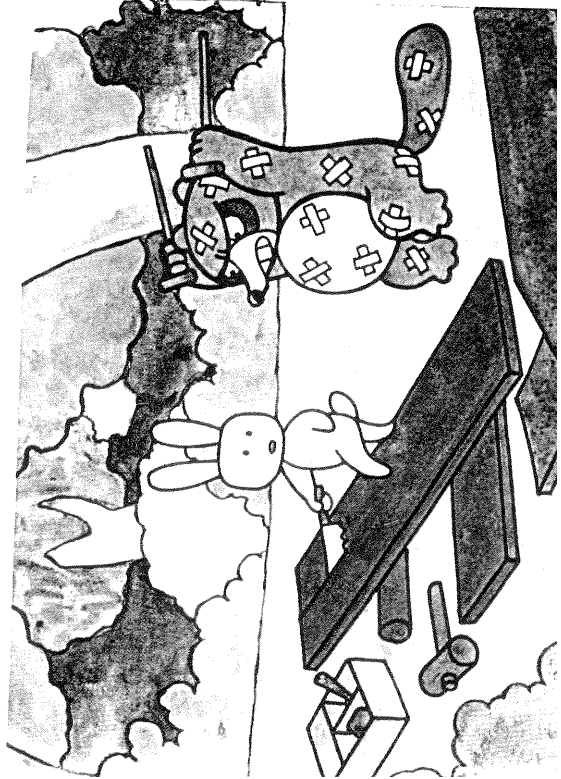
するとタヌキは、またまたコロリと、だま
されてしまいました。
「あたしはかるいから、木の船^{ねふね}だけど、おも
いタヌキさんは、泥^{どろ}の船^{ねふね}にしなさいね」
「うん、うん、そうするべえ」
こうしてウサギは、タヌキを川へ、つれだ
しました。



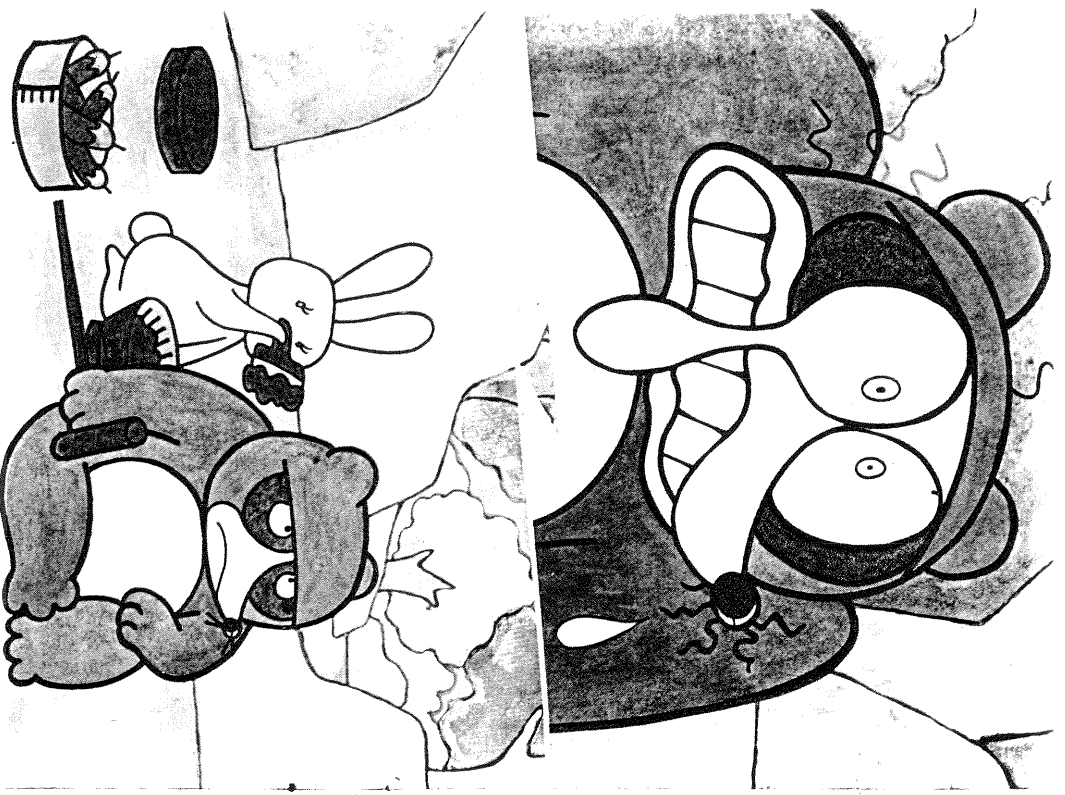


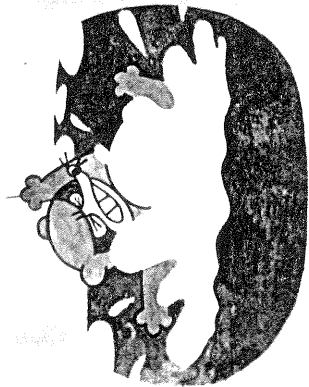
こうして、また、すっかりだ
 まされたタヌキは、せなかに、
 からしみそをぬられて……
 「うっ！ しみ、しみ、しみる
 うーう。ぎやあー!!」
 にげだすひょうしに、あらこ
 ちにぶつかって、きずだらけ。
 「ちくしょう、いまいましいウ
 サギめ！ こんどこそは……」
 と、ブツブツいいながら、や
 ってきますと。ウサギが、また
 なにか、こしらえています。

「このおー！ もう、ゆるさん
 ぞ。かくごしろー!!」
 いかりくるったタヌキは、つ
 えをふりあげました。けれども
 ウサギは、こんどもへいきな顔（顔）
 で、こういったものです。
 「どうして、あたしをぶつの？
 人（ひと）ちがいないで。あたしは、
 あと山のウサギよ。それより、
 ねえ、あんた。船（ふね）をつくって、
 いっしょに魚（いしや）どりにいかない？
 たくさん、とれるわよ」



きて、せなかにとおおやけどをおった夕又井は、くやくして
 しかたありません。
 「あのウサギのやつ、こんど見つけたら、ただじやおかんぞ。
 いまにみておれ……」
 ブツブツいいながら、やってきますと、いた、いた、いま
 した。あのウサギが、なにかこしらえています。
 「このおー！、よくも、だましおったな!!」
 ところがウサギは、いきな顔でこいうのでした。
 「あら、なんであたしをぶつの？ あたしは、なかな山のウサ
 ギよ。まえ山のウサギとはらがうわ。それよりあんだ、やけ
 どしてるんでは。このすりみそは、やけどのくすりよ。び
 ったりなおるわ。ぬってあげましょうか」

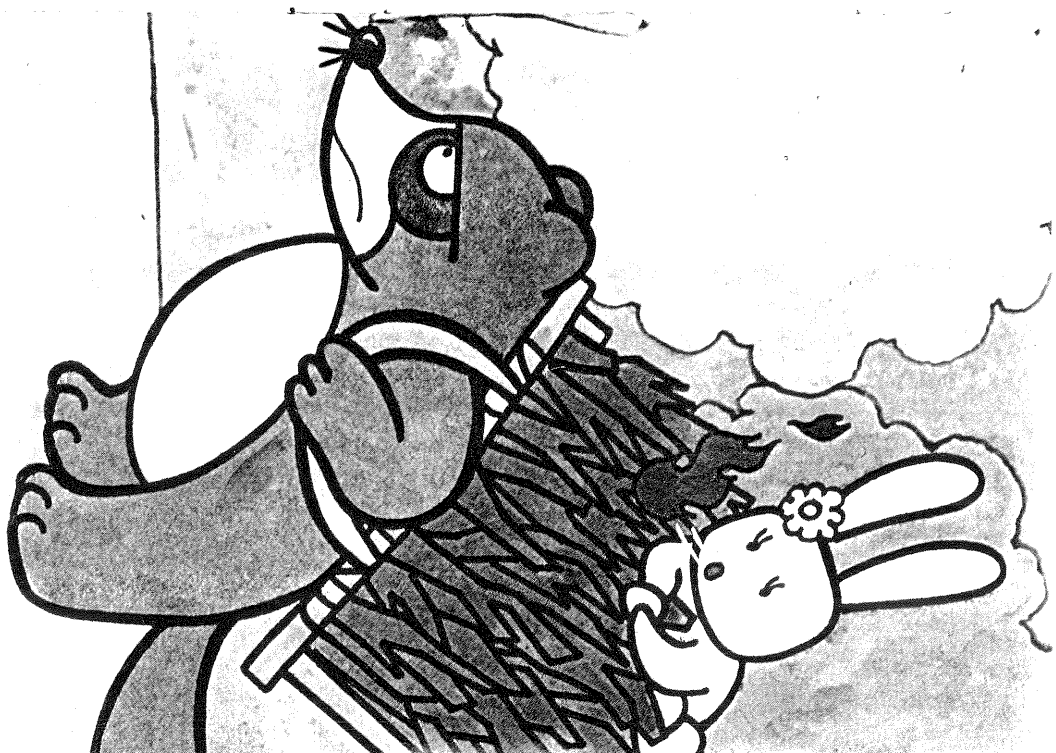




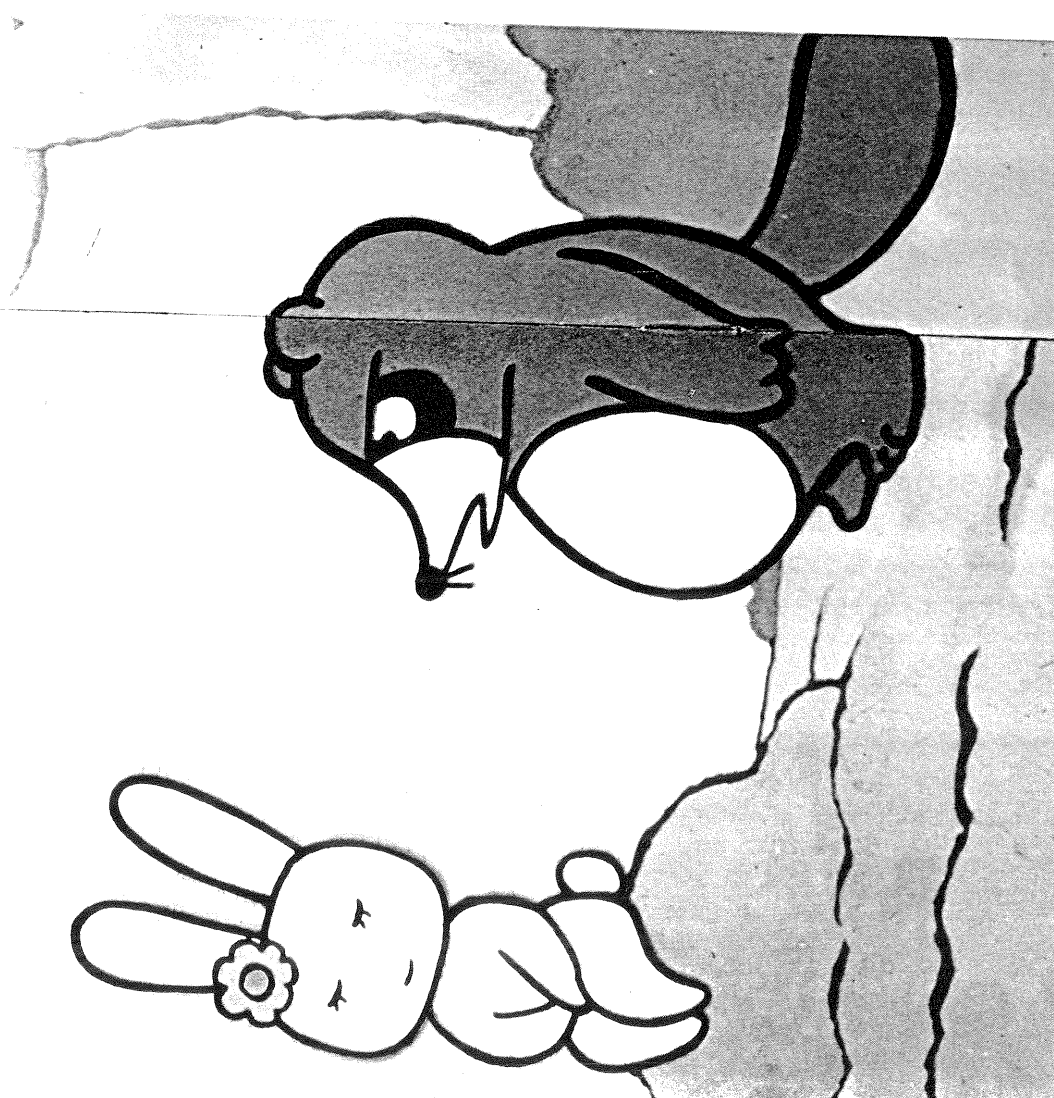
そうこうするうちに、火はどんどんもえひろがって、とうとうタヌキは、がまんできなくなりました。

「うわーっ！ あち、あち、あちーい！！」
せなかが火事になったタヌキは、あわてて川にどびこみましたそうな。ドツボーン……

こうして、タヌキをたき木どりにつれだしたウサギは、そのかえりみち。カチカチツと、火うち石で、たき木に火をつきましたそうな。この音をきいたタヌキが、
「ウサギどん、カチカチいうのは、なんの音だ？」
とききますと、ウサギはこうこたえました。
「カチカチ山の、カチカチ鳥が、ないたんだよ」
そのうちに、火がボーボーもえだして、
「ウサギどん、ボーボーいうのは、なんの音だ？」
タヌキがききますと、ウサギはまたこういいました。
「ボーボー山の、ボーボー鳥が、ないたんだよ」
「そうか!? でも、なんだから、あついなあ……!」
それでもまだ、タヌキは、だまされたことに気づきません。



つぎの日、ウサギはおめかしをして、煙の石のうえで、タヌキがあらわれるのをまらしました。するとやがて、
「やあ、ウサギどん。なにしてんだ？」
タヌキがこのこでてくると、こういいましたそうな。
「あんたをまつてんだよ。たき木をひろいにいきたいんだ
けど、あたし、足がいたくて……」
すると、まえからウサギのことがすきだったタヌキは、
「よし、それなら、おらにまかせろ」





んだかしれません。

そのときにはもう、ばあさま
は、つめたくなつておりました。
じいさまは、どんなにかなし



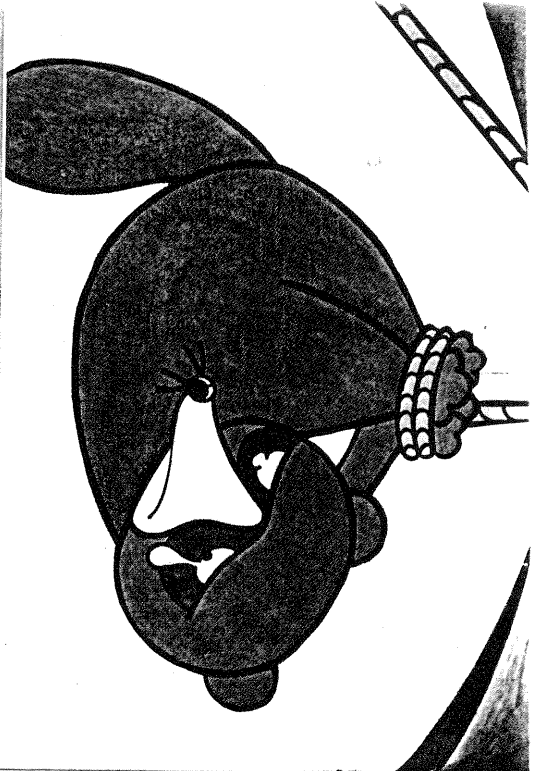
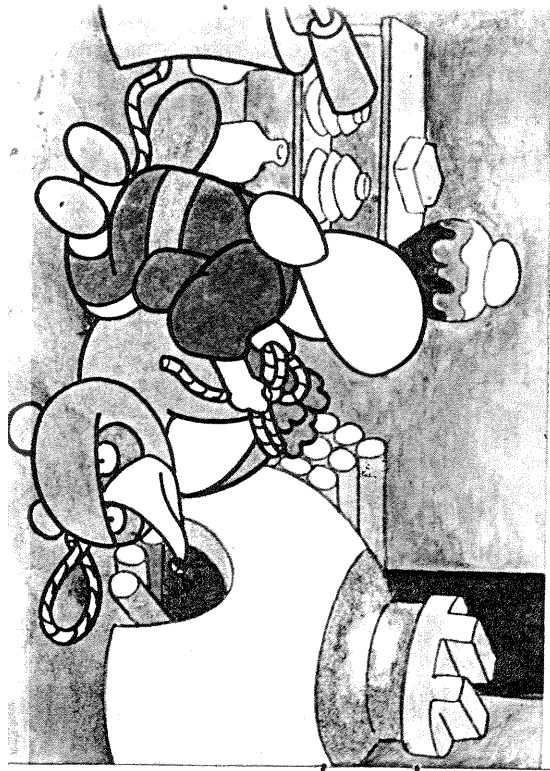
ばあさまのひめいをきいて、
じいさまが煙から、かけもどつ
てきますと、
「へっへ、ばあさまは寝てる
ぞ。もう、おきるしんはいは、
ねえよ!」
「ペロリと舌をだして、タヌキ
が、にげていくところでした。
じいさまは、びっくり。
」ばあさま、どうしたの……」
と、あわてて家にとびこみま
したが……。

これを見て、まえ山のウサギ
は、おちろタヌキをこらしめてや
ろうと、けっしんしました。



ところがどっこい、ナワがほどければこっちのもの……と。
わ・る・ダ・ヌ・キは、ばあさまの手からキネをうばいとると、それ
をふりがざして、ばあさまにおそいかりました。
「あれーっ!!」



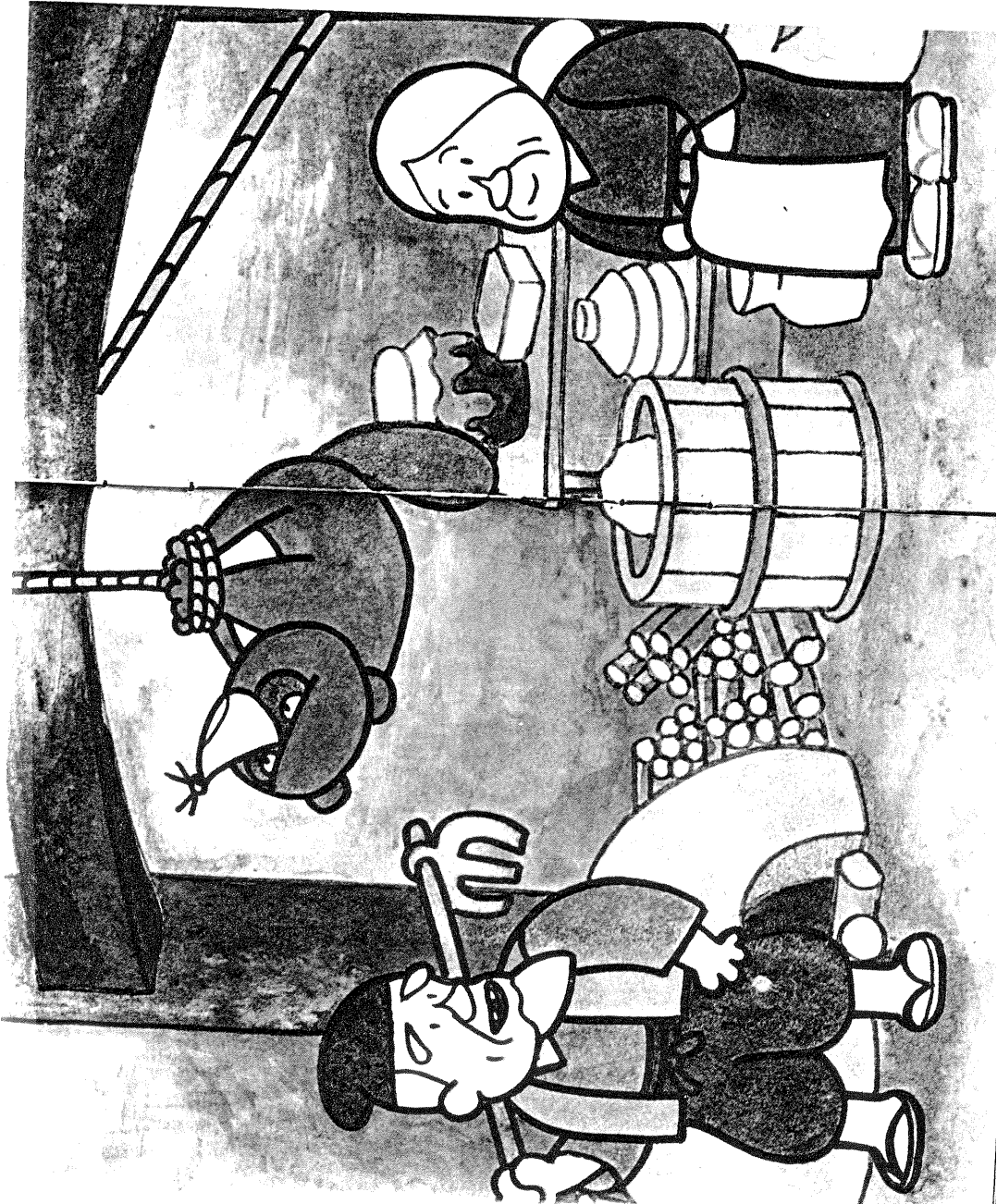


夕又キは、なんとかにげだそうとして、けんめいにおるぢえを、はたらかせました。そのためには、まず、ばあさまにナヲを、ほじめてもらわなければなりません。そこで、「ばあさま、おらがわるかった。なあ、おら死ぬまえに、なにか、つみほろぼしになることがしてえ。だからよお、ばあさま。このナヲを、ほじめてくだけせえ。そしたら、おら、ばあさまの手つたいをして、それから、夕又キ汁になりますで」夕又キは、うそのなみだをホロホロながして、そうたのんだのです。

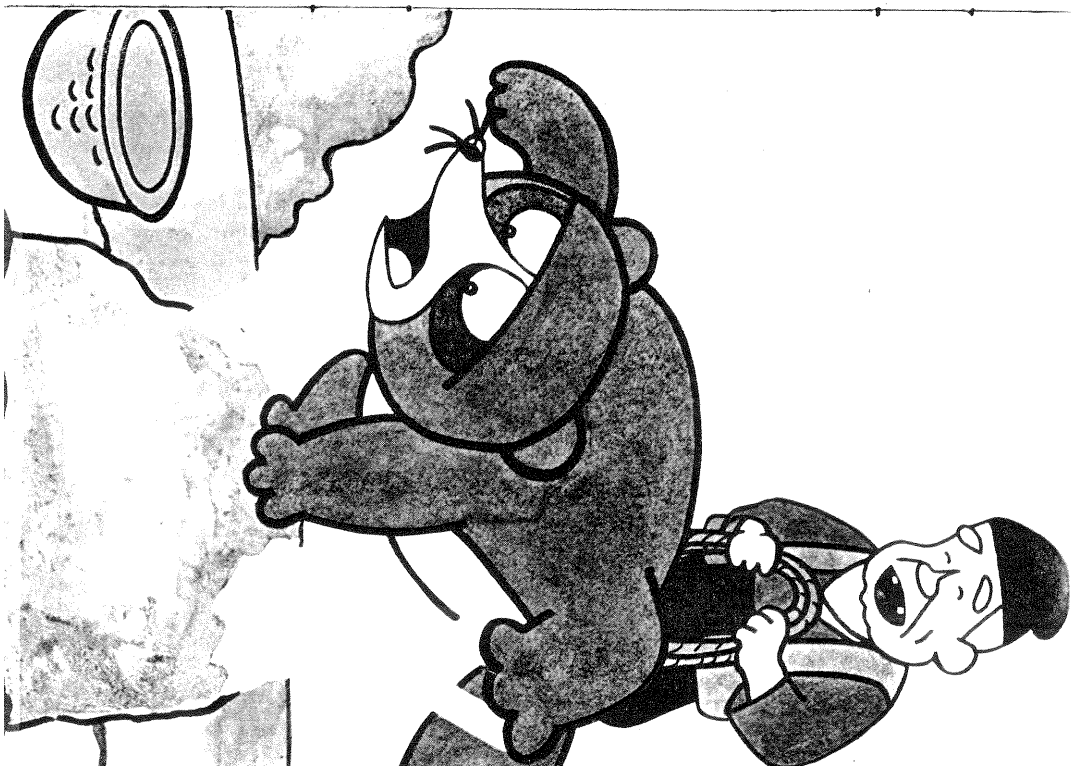
するとまあ、氣のいばあさまは、すっかりだまされて、夕又キをしばったナヲを、ほじめてやっただそうが。

「さあ、それじゃ、手つだつとくれ」

「ばあさま、こん夜は、タヌキ汁にしようかの」
「はい、はい。それでは、汁に入れるダンゴをこしらえて、
おかえりをまわっていきましょう」
こうして、じいさまが畑でかけていったあと……。



おる。タヌキのいたずらに、ほとほと手をやいたじいさまは、ふと、いいことを、おもいつきました。そしてつぎの目も、煙すすにいくと、なんでもないふりをして、せつせとクワをふるっておりました。すると、あんのじよう、またタヌキがあらわれて、「アホのじいさま、豆まめまきやタヌキが、ほじくるぞ」と、にくたらしく、はやしたてたのです。ところが……いい気になったタヌキが、豆まめをぬすもうとし、ますと……「うひゃーっ!!」
「じいさまが、石いしのうえにぬっておいだ、トリモチにはりついで、タヌキは、うごけなくなってしまう。



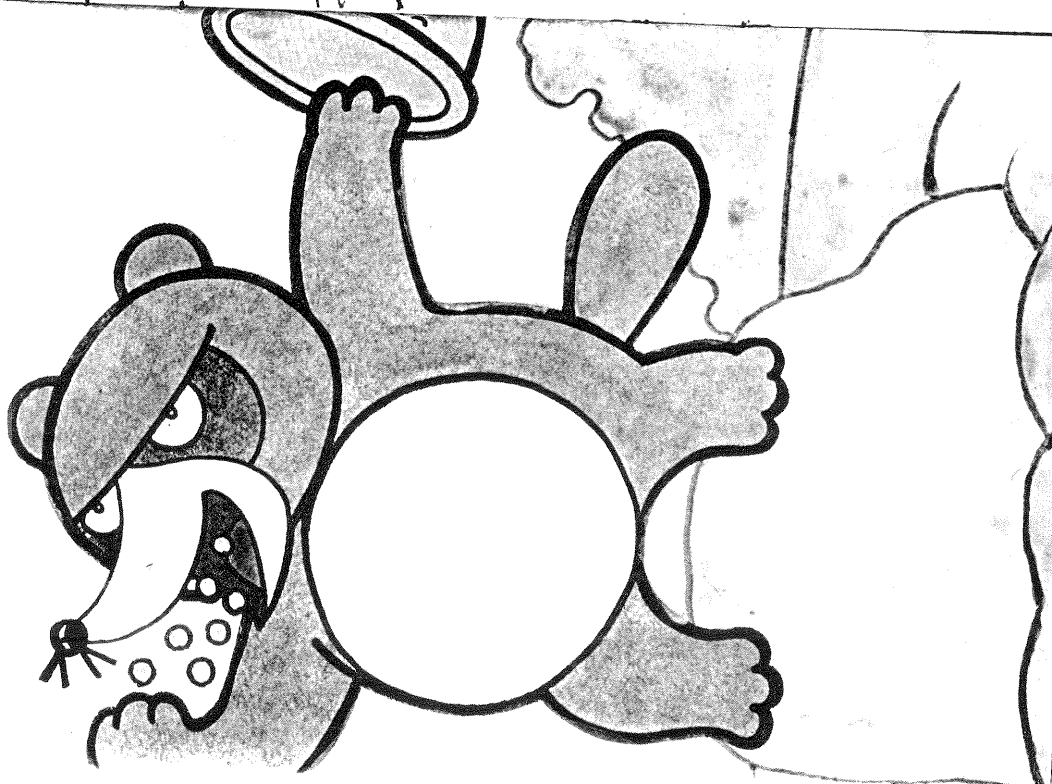


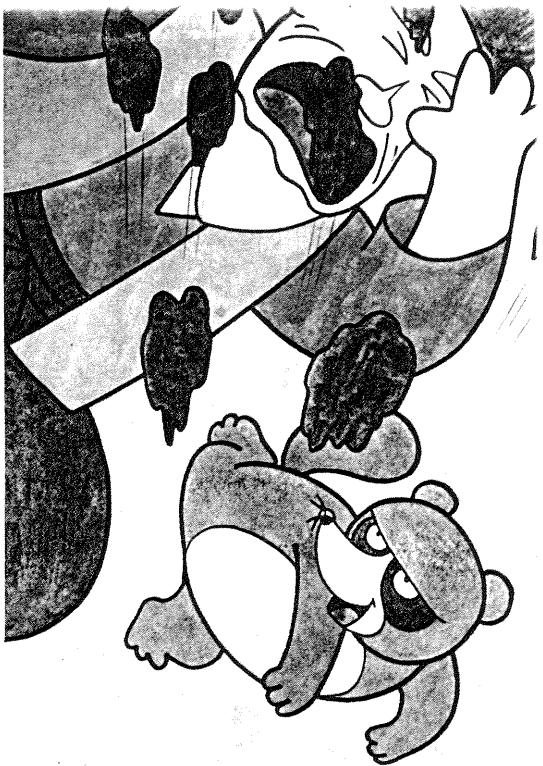
そんなある日のこと。
じいさまが、畑をたがやして
おりますと、タヌキがでてきて、
畑にまいた豆を、みんな食べ
てしまいました。

そして……

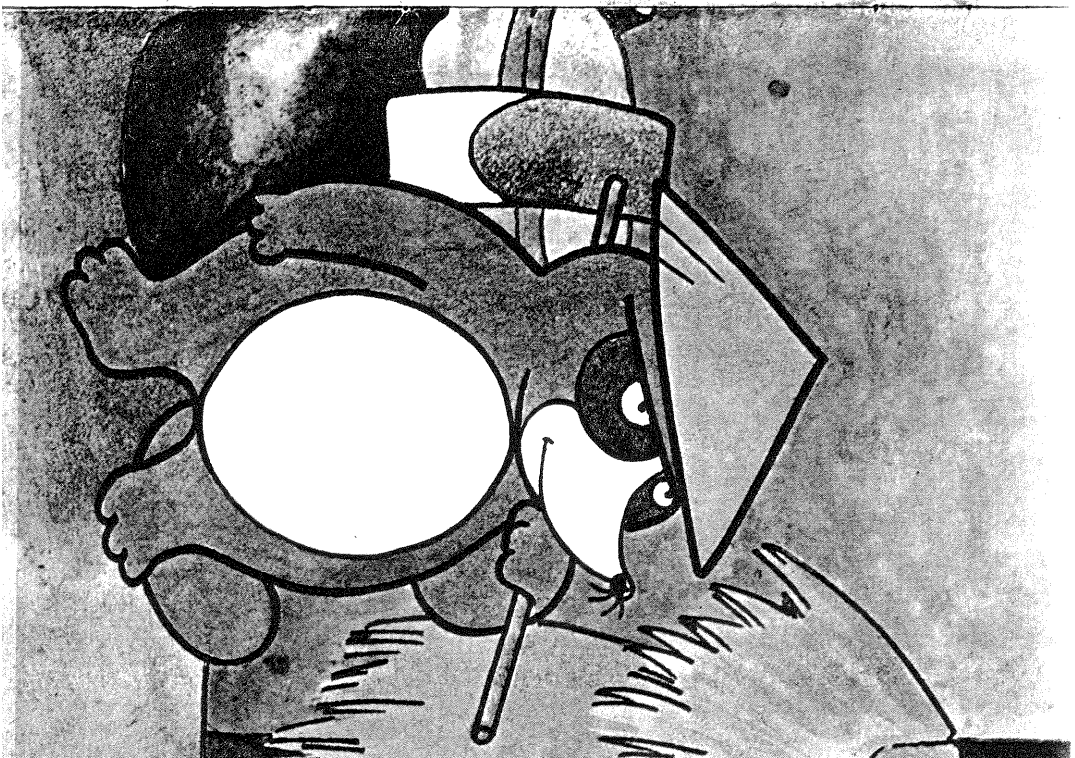
「アホのじいさま、クワもって、
豆もないのに、ホイサツサ。ア
ホのじいさま、クワもって、豆
もないのに、ホイサツサ……」

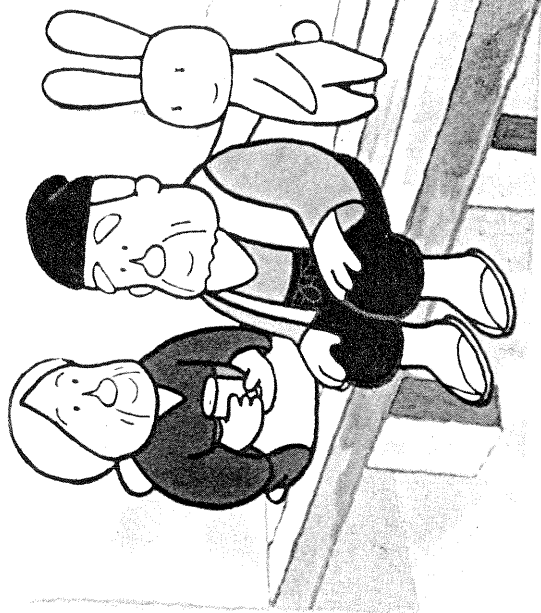
こんなはやし歌をうたって、
じいさまをばかにするのです。





このわるダヌキは、台所をあ
らすばかりではありません。じ
いさまの、だじな笠やクワを、
だまっでもちだしたりもするの
です。
それを、じいさまが見つけて、
「こら、なにをするか！」
と、おこりますと、ダヌキは
あやまるどころか、泥をなげつ
けてくるのです。
「ほんとうに、こまったダヌキ
じやない」





むかし、むかし。

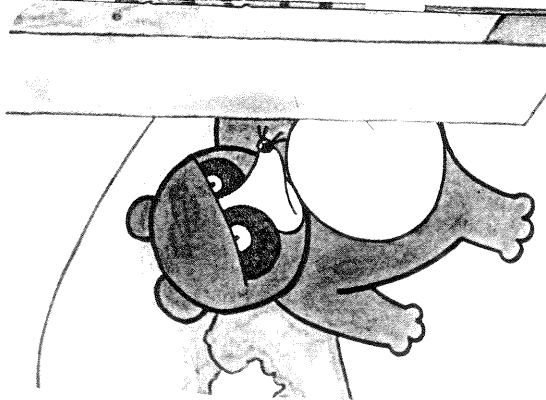
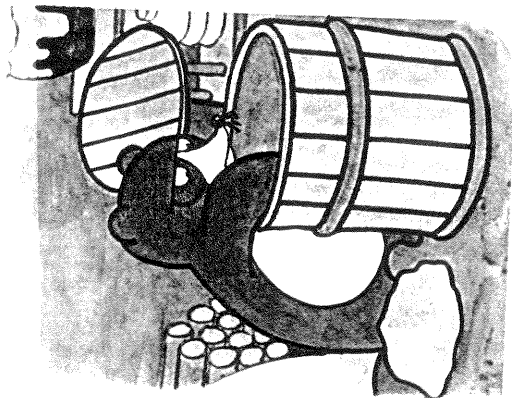
あるところに、それはそれは
 気のいいじいさまとばあさま
 が、すんでおりましたそうな。

このじいさまとばあさまに、
 まえ山のウサギが、たいそうな
 ついて、まいにちのように、あ
 そびにきておりました。

そこでじいさま、ばあさまも、
 このウサギを、ほんどうの娘の
 ように、かわいがつておしまし
 たそうな。

ところが、そこへ、ひょうば
 んのいたずらタヌキが、やっ
 きました。

このタヌキは、ひどいらんぼ
 う者で、おまけに、ひとなみは
 ずれた食いしん坊。

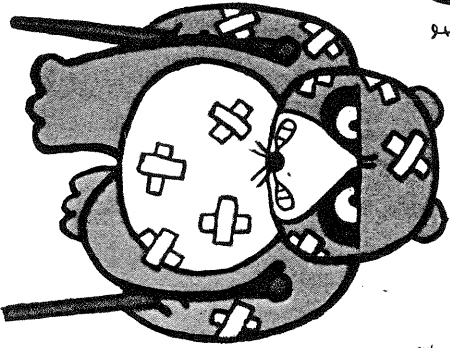


いつもじいさまとばあさまの
 目をぬすんで、合所をあらし
 まわります。

これにはじいさま、ばあさま
 も、すっかり手をやいておしま
 したそうな。

からから山

やま



まんが日本昔ばなし にっぽん昔 第五十六話

「かいせつ」このおはなしは、『さるかに合戦』とならぶ代表的な動物昔ばなしですが、ほかのおはなしにくらべて、たいへん残酷なところがあります。なんの理由もなしに、おばあさんが殺されてしまうところなど、おそろしくいらいます。それでも、あとになつてウサギがでてくると、タヌキとのやりとりのおもしろさで、なんとかすくわれる感じになります。

ところで、このおはなしにてくるウサギをどう思いますか？

いくらおばあさんのかたきをとるためといつても、ちよつとするいですね。じつは、昔ばなしに登場するウサギの性格は、『いなばの白うさぎ』くらい、はかりごとをして仲間をだますゆんだんのならない動物、ということになっているのです。いまの童話とは、そのへんがちがっています。(新潟県の昔ばなし)